

12 有限会社モリ工業

LED照明機器及び次世代レーザーヘッドライト 量産化への貢献



会社概要

- 社 名：有限会社モリ工業
- 代表者名：代表取締役会長 森 悦宏
- 所在地：〒424-0105 静岡市清水区山切25-1
- 取材地：同所在地
- 設立年月：昭和62年9月
- 業 種：生産用機械機器具製造業
- 資本金：5,000千円
- TEL：054-364-3844
- URL：http://www.ygmori.co.jp/



取り組みの経緯



今後の事業展開について話す稲垣社長

顧客のビジョンを叶える 総合機械メーカーの取り組み

静岡市清水区に本社を構える有限会社モリ工業。県内でも有数の産業用機械製造のプロフェッショナル企業だ。創業は昭和60年と比較的若い会社であるが、同社が手掛ける機械は、顧客の要望に忠実でありながら質が高く短納期である点が特徴であり、顧客満足度も非常に高い。

同社が現在、主として手掛けているのは、自動車外部パーツ組立機を中心とした、自動車部品メーカー向けの機械である。中でも、自動車照明器具の専用機械の受注が多く、関連企業からの信頼は厚い。

そのような状況下、同社に対する引き合いは多く、受注量に対し供給が追いつかず、機会損失に繋がるケースも増えていった。また、競争が激しい自動車産業において、顧客から選ばれ続けるためには、更なる付加価値の向上に取り組む必要もあった。

そこで同社は、得意分野とする自動車照明において、今後国内で普及していくであろう次世代型ヘッドライトの組立機械の開発を通し、生産体制の再構築と顧客ニーズへの対応を図っていくこととした。

事業の概要

自動車用産業機械の試作開発を中心に、ものづくりに邁進する有限会社モリ工業。その顧客対応力の高さから受注数が増加しており、生産が追いつかず機会損失のケースもあった。今回の事業では、生産工程の効率化と次世代レーザーライト用産業機械における部品安定供給を図った。

取り組みの内容



大型マシニングセンターは複合加工が可能となった

生産体制の見直しと拡充 求めたのは高精度かつ素早い加工

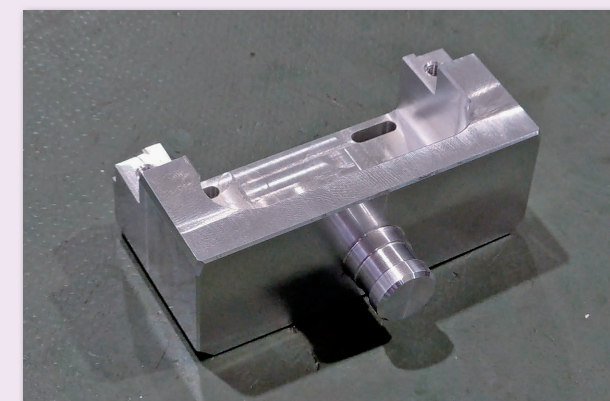
同社が、事業に取り組むにあたってポイントとしたのは、受注量への対応とボトルネック加工の改善であった。増加傾向にあった受注に関しては、工場のキャパシティも限界であったため、組立及び在庫保管等のスペースを拡充したほか、積極的な人員の登用も行った。

また、ボトルネックとなっていた旋盤 & フライス盤加工に対しては、複合マシニングセンターを導入することで、作業時間の短縮と全工程の稼働力の改善を狙った。

機械の導入に際しては付加価値強化のため、従来の5分の1のサイズとなるLEDダイオードを扱える精密部品の製造にも対応した高精度のマシニングセンターの導入が求められた。

「従業員にもかなり頑張ってもらっていたので、なんとか楽をさせてあげたかった。ボトルネックの旋盤・フライス加工の効率化ができれば、工場全体の生産性向上と従業員の作業負担の軽減が図れると考えました。」と稲垣社長は当時の状況を語った。同社にとって本事業は社運を賭けた取り組みであった。

結 果



複雑な形状も高精度かつ短時間でできる

工程短縮による生産力アップ 試作開発等の積極受注が可能に

高精度マシニングセンターの導入はいたってスムーズであった。事前に拡張したスペースへ配置後、テスト加工を実施し、加工手順の最適化を実施した。課題となっていたボトルネック加工は、複合加工の実現によって、段取りとプログラム入力に1回に短縮された。切削条件についても、ツールの回転数が向上し加工精度が安定したことにより、従来よりも取りやすくなった。

サイクルタイムについても、従来の2工程で120分かかっていたものが、事業後は62分とおよそ48%の作業率向上が実現した。

「工場全体の生産性が上がったので、新規案件に積極的に取り組む余力も出てきました。」と、新規の事業についても話が聞けた。従来人の手で行っていた作業を、チャックとそのトルク加減で自動化することを研究中だという。また、他社の加工を請け負うことも実施しており、技術力を基盤とした新事業への働きかけを緩めることはない。同社の今後の取り組みに引き続き注目していきたい。